

海とにんげん & SOS

2026.6.30

Vol.53



「海の博物館で漁業体験」

写真は5月30日（土）、鳥羽市主催で市内の小中学生に網漁法について知ってもらうために開催した「漁業体験」の様子です。参加者は、小中学生16名とその保護者7名、市や海の博物館の職員などスタッフ13名で対応しました。

この日は大潮、10時30分ごろに小白浜の干潟に出て、碎波帯ネット（サーフネット）を交代で曳き、曳き網の基本的な漁法を体験しながら、魚捕りに挑戦しました。最初は、ネットの使い方がぎこちなかった子どもたちも、慣れてくるとネットを上手く広げて魚が捕れるようになってきました。参加者は、何が捕れているのかと興味津々。手づかもうとしたり、小さな網で抄いとりたりして楽しんでいました。捕れた魚について名前を学び、最後に全員で魚を海に放して、博物館に戻りました。

午後は、博物館内の網漁の展示の前で、刺し網の実物資料を使い、ボラの刺し網漁とイセエビの底刺し網漁の説明、刺し網の一枚網と三枚網の違い、網糸の太さや網目の大きさの違いなどを学習、その後、網漁を紹介したイラストや展示場の模型を使って、曳き網漁の種類、定置網漁、旋網漁について、どのような違いがあるのかを学習しました。

その後、博物館のホールに移動、鳥羽市水産研究所の水野さんから「ロープの仕組み」を聞いたあと「まき結び」、「本結び」、「もやい結び」の3種類の結び方に挑戦しました。

子どもたちからは「魚は釣ったことはあるが網で捕まえたのは初めてだった。」「刺し網に使う網の糸はとても細かった。」「三枚網は魚が掛かりやすいのが分かった。」「家に帰って、結び方を練習して覚えます。」などの感想をいただきました。

最後に「また漁業体験があれば参加したいです」との問いに、全員が大きな声で「ハイ」と手をあげてくれました。

（平賀）

ウナギのはなし4 2～4P
 東京大学名誉教授 大竹二雄
 アマモ場が復活するために 5P
 浦村地区藻場保全活動組織

錦浦の鰯大漁記念碑 6P
 企画展「伊勢湾・鳥羽の海洋ごみ
 ～未来へ向けてできるコト～」 7P

鳥羽市立



海の博物館

公益財団法人 東海水産科学協会

発行日/53号 令和8年6月30日
 発行所/〒517-0025

三重県鳥羽市浦村町大吉1731-68
 鳥羽市立 海の博物館・SOS運動本部
 TEL 0599 (32) 6006

編集人/平賀 大蔵
 印刷所/株式会社アイブレーン
 購読料/年間1500円季刊発行送料含
 郵便振替口座/00830 6 92330
 ホームページ/ <http://www.umihaku.com>